

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際理解ワークショップ（形態：ワークショップ）
2. 実施者：上原真紀（特活）沖縄 NGO センター
3. 日 時：2016 年 1 月 15 日（金）
4. 場 所：石垣市立伊原間中学校（名古屋市中村区）
5. 参加者：40 名
6. 実施報告：

国際理解・異文化理解を大きなテーマとし、主催である 2 校の先生から生徒に世界の多様性に気づき、世界に視野を広げて欲しいという希望があったことから、「世界がもし 100 人の村だったら」のワークショップを行った。

所感

沖縄の中でも特に離島の生徒にとって、海外や途上国というのは遠い国の話であり、世界で起こっていることが自分のことのように思えていない印象だった。しかし、本ワークショップを通して世界の文化や習慣、生活水準の違いを体感することで、「自分たちの生活が当たり前でないことに驚いた」という感想があったことから、生徒たちが今までとは違う世界に触れることができた実感できた。

中には国際協力に興味のある生徒もいることから、これからも国際協力に関する内容を取り扱うよう教員に促し、興味関心のある生徒の学びにつなげたい。離島では国際協力に関する講演やワークショップの開催はなかなか無いが、より多くの人に国際協力への興味関心を高めるためには、今後も離島での取り組みを行っていききたい。



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：関西学院高等部での国際協力の講演

(形態：講演)

2. 実施者：坂西卓郎 ((公財) PHD 協会職員)

3. 日 時：2016年1月29日 (木)

(10時55分～11時35分)

4. 場 所：関西学院高等部 (兵庫県西宮市上ヶ原一番町)

5. 参加者：16名

5. 実施報告：

関西学院高等部の学生に国際理解と多文化共生についての講演を行った。同校は文科省のスーパーグローバルハイスクールの認可を受けており、国際理解教育に熱心な学校である。また、同校では当会創始者である岩村昇氏が過去に講演を行ってきた経緯もあり長い間ご縁のある学校である。今回は、特に国際協力に強い関心を持ち今回の授業を選択した学生が文化共生についての理解を深めるべく講演を依頼された。

国際協力に関心を持ち、アジア学院で研修を行ったり、海外での経験を持つ学生などもいたものの、高校生にできるだけわかりやす

く講演をすべく、スライドショーで写真を見せながら進行した。今回のメインテーマは「国際協力と多文化共生」として、当会のインドネシア人研修生の村とその生活を紹介しながら、途上国の村での実際の生活とその課題、それを解決すべくどのような活動が行われているかについて話した。

主たる講演はNGO相談員である坂西が行ったが、当会の研修生であるインドネシア人のシャフルル氏もインドネシアでの生活と彼の半生を紹介したため、学生には、生の声を届けることができたように思う。特に、シャフルル氏の子どもが学生たちと同年代であったため、シャフルル氏自身や彼の家族に起こった苦労などは、学生も熱心に聞き入っているようであった。

また、宗教について。シャフルル氏はイスラム教徒であるが、坂西から、「イスラム教は本来、人を殺すことはいけないことで、けんかをすることもいけないことだ。ほんとうのイスラム教徒は平和を大切にする人達である。」と話した際は、ニュースでイスラム教徒についてネガティブな報道が占めていることもあり、学生も真剣に聞き入っている様子であった。

その為、メディアを通した情報でなく、生の現場の声を少しでも

届けられたのではないかと手ごたえを感じることができた。



NGO 相談員制度について説明を行う



関西学院高等部の学生、約 16 名



インドネシアの生活と宗教について話す研修生